（４）工事における社会的コストの低減
Ⅳ①工事におけるリサイクルの推進

植物発生材の有効活用による環境負荷の低減

JH リサイクルプラント

【施策の概要】

高速道路の維持管理で発生する刈草や剪定枝などの植物発生材は年間４０万㎥に達します。従来は、農家の引取りや廃棄処分を行っていましたが、JH として自ら堆肥化処理を行い、高速道路の建設工事・改良工事で土壌改良材として有効利用しています。道路から発生したものを道路に返す「緑のリサイクル」により、新たな緑を育む土壌をつくります。全国 8 箇所あるプラントで６万㎥の植物発生材から６千㎥の堆肥を生産し、使用しています。

【施策のポイント】

建設資材として使用するために堆肥には一定の品質が常に求められることに対して、維持管理で発生する刈草等の原料は時期により水分条件が大きく異なります。また効率的な堆肥化には、定期的な切り返しによる発酵温度の確保も重要です。これらをクリアするために、十分な基礎試験と機械化による工程管理を行い、安定した堆肥生産を可能にしています。

【施策の実施状況・イメージ図】

植物発生材　　４０万㎥

敷草利用	緑のリサイクル	農家等の引取り	廃棄処分
６万㎥	６万㎥	１２万㎥	１６万㎥

河口湖プラントにおける刈草の集積と堆肥化（発酵）

稼動プラント：河口湖 IC、緑化技術センター、鮎沢 PA、玖珠 IC、
潮来 IC、桜土浦 IC、那須高原 SA、黒部 IC　計 8 箇所

＊発生材及び各処理数量は H11 年度実績